

第3章 委員会・公開討論会を踏まえた提言

3-1. 公開討論会での意見のとりまとめ

○自治体独自の地域科学技術振興施策

- ・戦略は地域が考える
- ・高邁なビジョン、目的、哲学が重要（世のため、人のための研究開発）
- ・プレーヤーとサポーターを明確にした具体的ビジョンの作成
- ・地元の人間の熱意をいかに引き出すか
- ・研究開発に協力してくれる地元の人への教育、啓蒙活動
- ・国の提案公募の採択から漏れた研究課題を自治体が救済

○地域に根ざしたシーズの創出

- ・地方の理工系大学は東京大学工学部の系統を色濃く踏襲、地域に根ざしたシーズが出てこない。クラスターについても研究課題がハイテクのような人気のあるものに集中
- ・地方のシーズ、優位性の検証のためには中央からの視点も必要

○ニーズに沿ったシーズの発掘と育成

- ・21世紀の課題は食糧・エネルギー・環境
- ・ニーズを組み込めるように「産学官民」の組織構築

○産学官連携会議など連携を促進するシステムの構築

- ・行政が大学等研究機関のシーズを知らない
- ・地方の大学では産学官連携の助成施策が十分に分かっていない

○産学官連携のシステムの変革

- ・技術開発に成功しても事業化に失敗しているケースが多い

○地域は大学等研究機関の知的資源を最大限に活用

- ・今後の大学は地域の人々への生涯教育と地域振興への貢献が必然的
- ・大学を中心とした新産業拠点の創出（大学の全学的取り組みによる大学をコアとした知的集積づくり、産学官連携体制づくり）

○地域科学技術振興のための予算の拡大

- ・科学技術振興のための政府予算3兆6,000億円、内産学官連携等による地域科学技術振興をターゲットとする予算は400億円程度
- ・予算よりも効率的・効果的な産学官連携体制の構築が重要